

## 〈第2章〉

第5回船場減災展 2015  
ワークショップ

まち歩きでつくる減災カマップ

## 記 録

2015年10月9日・10日

本 町 × 御堂筋エリア

淀屋橋 × 御堂筋エリア



# 第5回船場減災展ワークショップ 『まち歩きでつくる減災力マップ』

## 第5回船場減災展2015ワークショップ 『まち歩きでつくる減災力マップ』を実施

行政・地域団体と当社が協働で取り組んでいる「船場減災展」は、5回目を迎える。今回のテーマは、企業BCPと船場地区の減災活動の結び付け。ワークショップでは、まち歩きをして、まちの減災課題を見出し纏めて、マップ化する。11月12日のシンポジウムで発表する。



ワークショップの様子  
上 美化活動しながら、まち歩き  
下 マップづくりのための  
まちの減災課題探し

### 概要

#### ■ 第5回船場減災展 2015

「船場まつり」と連携して、今年で5年目を迎える。

○目的：

船場地区住民・ワーカーの減災意識とスキルの向上、減災によるまちの活性化を図る。  
都市ガスによる安心な街づくりも発信する。

○内容：

例年、減災スキルの向上のためのワークショップと、減災意識を高めるシンポジウムの二本立てで行ってきた。

○まち歩きでつくる減災力マップ：本町と淀屋橋の2エリアのまち歩きをして、まちの減災課題を見出し、それらを纏め、マップ化の素材作りをするワークショップを行った。

実施日 10月9日(金)、10日(土)午後 会場：ガスビル、淀屋橋odona  
参加者 一般ワーカー、RCメンバー、まちづくり団体、障害者支援団体、コンサル、保険、学生、大阪市、茨木市、大阪府 等、合計45人



## 第5回船場減災展2015ワークショップ 『まち歩きでつくる減災力マップ』素案を作成

行政・地域団体と当社が協働で取り組んでいる「船場減災展」は、5回目を迎える。今回のテーマは、企業BCPと船場地区の減災活動の結び付け。ワークショップでは、まち歩きをして、まちの減災課題を見出し纏めて、マップ化する。11月12日のシンポジウムで発表した。

### 概要

○内容： 例年、減災スキルの向上のためのワークショップと、減災意識を高めるシンポジウムの二本立てで行ってきた。  
○まち歩きでつくる減災力マップ：本町と淀屋橋の2エリアのまち歩きをして、まちの減災課題を見出し、それらを纏め、マップ化の素材作りをするワークショップを行った。

実施日 10月9日(金)、10日(土)午後  
会場：ガスビル、淀屋橋odona





# 本町 × 御堂筋エリア まち歩きでつくる減災力マップ

まちを掃除しながら、減災の手がかりを探して、サバイバル・自助に役立つ減災力マップにまとめます。

A. 本町 × 御堂筋エリア 日程 10月 9日(金) 集合・開始 午後2時30分 終了・交流会(希望者) 午後4時30分

## 1. 調査範囲

御堂筋 × 中央大通りの交差点から半径約250m  
様々な都市機能が集まっています。

(右図 カラー○形の範囲)

## 2. まち歩きの経路・手順

- 午後2:30 ①南御堂山門(集合)  
2:30 ②自己紹介、進行説明、  
避難イメージマップ描き  
2:45 ③まち歩き と ゴミ拾い  
3:30 ④ガスビル1F・フラムテラス到着  
休憩・設営  
3:45 ⑤まちの減災課題書出し、地図貼り  
3:55 ⑥当初イメージと比較、意見交換  
4:15 ⑦片山リーダーの講評、自助レク  
4:30 終了予定

## 3. 分担 ゴミ拾い係、フリーwi-fi確認係、メモ係 (二人ペア) シンガリ(隊列の最後尾)

## 4. リーダー 片山 誠 氏(72時間サバイバル教育協会)

## 5. まちの減災課題書出し、写真撮影

- (1) 安心箇所 (■ のポストイット)
- ・ホテル・社寺
  - ・公開空地・後退空間
  - ・被害受けにくそうな(新しい)建物
  - ・フリーwi-fi利用可
  - ・飲み水・食料、衣類調達
- (2) 不安箇所 (□ のポストイット)
- ・窓ガラス割れ落ち、倒壊しそうな建造物
  - ・避難・歩行障害物
  - ・津波被災・水没箇所



事務局 大阪ガス株式会社 近畿圏部 (担当: 森吉) 携帯 090 1586 6046  
写真等データ送り先 h-moriyoshi@osakagas.co.jp

## ■プログラム1. 減災目線で船場のまち歩き と 減災課題発見

### 集合0 出席確認、ツール渡し、名札書き

- ① 参加者全員の名札に記名、自己紹介をお願いします。(お名前・ニックネーム、参加の動機、避難元(職場など)の場所 ⇒ 避難先(自宅など)の場所、サバイバル面で役立つ技能がお持ちなら など)、スマートフォンのご所持の有無)
- ② 前提条件
  - (1) 想定する災害 午後3時に地震発生 ⇒ 午後4時30分津波到達
  - (2) リスクエリアの想定 御堂筋以西が冠水。(50センチ、)
  - (3) 帰宅困難性について 上の想定だと、一時間以内・2km圏外は帰宅困難。  
○自宅まで10km以上の方は、帰宅困難になる可能性が大きい。(とされている)  
駅間距離約10km: 京阪本線/門真市くらい、御堂筋線/江坂・長居くらい、中央線/大阪港・荒本くらい、JR神戸線/尼崎くらい、阪急京都線/上新庄くらい(最短の鉄道駅間距離、実際はもっと遠い)  
○歩く速度は、平常時の半分。1時間歩いて2km!  
○夜間の移動は、非常に危険。街灯も信号も点いてない、真っ暗闇!
  - (4) 中央区の想定帰宅困難者数は、約25万人を想定(このくらいの方が、あてどなく? 御堂筋を漂う、とっておく。)
- ③ 避難空間のイメージ・マップの作成
  - (1) 目的地・避難先 船場の人⇒避難所への移動、遠方の人⇒一時滞在
  - (2) 避難先に期待すること を思い、描く。
  - (3) 移動ルート 大きな関門(川、橋、駅、大通り・交差点) 避難時の目印 障害物
- ⑤ まち歩き実施 まちと避難者の減災課題発見してください。(逃げるばかりが安全とは限りません。)  
安心箇所: 緑のポストイット 危険・不安箇所: ピンクのポストイット  
○着眼点 津波から避難できそうな場所(高い建物、公共施設、広場・社寺、)、支援先(交番、災害時帰宅支援ステーション)、通信手段(公衆電話、フリーwi-fi)、救助用資材(AED、救助用資材)、ルートの安全性(電柱、古いビル、路面障害物、駐車・駐輪、緊急車両動線⇒病院・診療所、役所、避難所等)、トイレ、雨宿り、サバイバル手段の入手先(衣料、食料、飲料、家庭薬、ツール)

○ツール ゴミ袋(join!さん・笑働大阪さんご提供)、トレーラー(分別ごみ袋、ごみはさみ)、中央区防災マップ、ポストイット(2色)、ゴルフペンシル

## ■プログラム2. 発見した減災課題の共有化 ～ 72時間サバイバル・自助に向けて ～

- ① 参加者: 大地図にポストイットを貼り付け
- ② 参加者: まちの課題 意見出し
- ③ 片山先生: 72時間サバイバル の面からの講評・自助レクチャー
- ④ 参加者: 感想 避難空間のイメージ・マップ との比較等

主催 船場減災展実行委員会メンバー

(大阪市中央区役所、大阪ガス、船場げんきの会、大阪船場ロータリークラブ)

協力 大阪本町御堂筋ロータリークラブ、御堂筋まちづくりネットワーク、JOIN! 未来を変えるごみ袋プロジェクト、NPO 日常生活支援ネットワーク



船場減災まち歩き 参加者アンケート

	質問1				質問2			意見・感想	性別	年齢 (歳代)
	1. イ 参考になった	2. ロ 参考にならなかった	3. ハ どちらでもない	4. 回答なし	イ まち歩き	ロ リーダー	ハ スケジュール			
1	1	1	1					森吉さんの説明、片山先生の説明が具体的でわかりやすかったです。	男	40
2	1							防災に関する色んなお話を聞けたので良かったです	女	20
3	1	1							男	50
4	1	1						一斉清掃だけでなく、また減災だけではない、両方の組み合わせが良かったです。		
5	1	1	1						女	
6	1	1						wifiがつながりそうでつながらないなど、普段まちを歩いていて気づいていないことに気づけた。中央大通りにゴミが多いことも気づいた。	女	30
7	1	1						防災という視点からまちを見てよかったです。		
8	1	1						色々考えながら歩けたのでよかったです。		
9	1	1							男	50
10	1	1						現実に防災という観点を持って街を歩くことがなかったのが色々と気づかされた	男	50
11	1	1							男	20
12	1	1						この周辺を利用することがあんまりなかったため、今回考えたことをきっかけに自分の街についても考えられると思ったから。	男	10
13	1	1							男	50
14	3						1	御堂筋のエリアなど、詳しく知らないので実際に見ることができてよかったです。		
15	1	1						減災を意識しながら、まち歩きをするのは貴重な経験		
16	1	1						普段見ない所に、目がいった。		
17	1	1	1					課題などを整理していただいた。	男	70
18	1						1	エリアの災害マップを知ることができた。	男	20

10歳代	0	0%
20歳代	0	0%
30歳代	0	0%
40歳代	0	0%
50歳代	0	0%
60歳代	0	0%
70歳代	0	0%
回答なし	7	100%

7

男	9	50%
女	3	17%
回答なし	6	33%

18

質問1

1. イ 参考になった	17	94%
2. ロ 参考にならなかった	0	0%
3. ハ どちらでもない	1	6%
4. 回答なし	0	0%
	18	100%

質問2

イ まち歩き	15	83%
ロ リーダー	4	22%
ハ スケジュール	0	0%
回答なし	2	11%
	21	117%

# 「船場減災カマップ」(2015年版)

ワークショップの成果をまとめて「減災カマップ」(2015年版)を制作しました。今後、船場のワーカ一等の意見を盛り込み、さらに充実させていきたいと考えています。

## 淀屋橋エリアの減災マイ情報

自分の身は自分で守る(自己防衛)のために、次のようなことを地図に書き込んでみてみましょう。

1. 被災時の助け合い等からの備蓄・移動ルートの設定  
備蓄・移動ルートの避難所(災害用伝呼ダイヤル、非常用伝呼機、非常用伝呼機)
2. 備蓄・移動ルートの安全安心・支援情報  
備蓄・移動ルートの避難所(災害用伝呼ダイヤル、非常用伝呼機、非常用伝呼機)
3. 備蓄・移動ルートの避難所(災害用伝呼ダイヤル、非常用伝呼機、非常用伝呼機)
4. 情報入手先 (Web:防災ポータル、防災ポータル、防災ポータル)

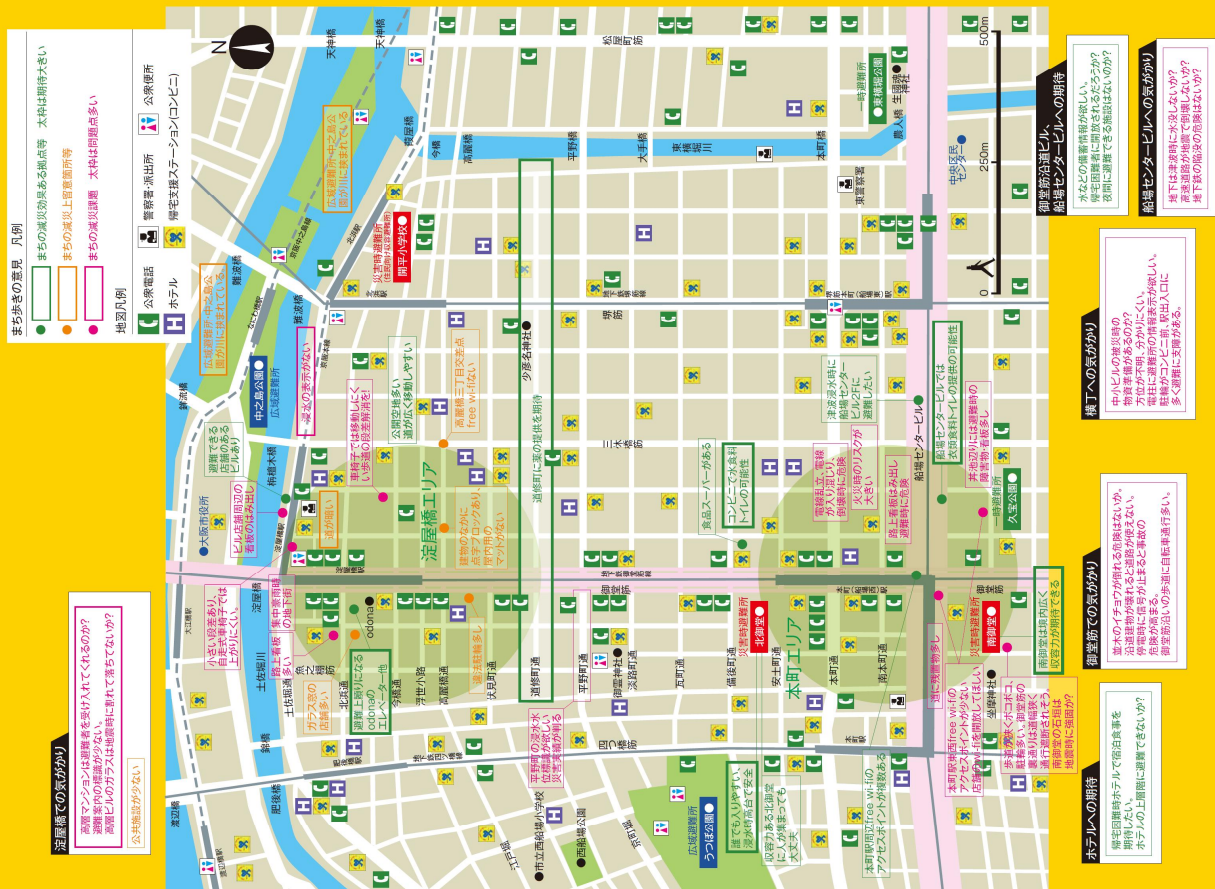
中央区災害対応マップ (白田・船場・土佐・本町・本町東) もご利用ください。

## 本町エリアの減災マイ情報

自分の身は自分で守る(自己防衛)のために、次のようなことを地図に書き込んでみてみましょう。

1. 被災時の助け合い等からの備蓄・移動ルートの設定  
備蓄・移動ルートの避難所(災害用伝呼ダイヤル、非常用伝呼機、非常用伝呼機)
2. 備蓄・移動ルートの安全安心・支援情報  
備蓄・移動ルートの避難所(災害用伝呼ダイヤル、非常用伝呼機、非常用伝呼機)
3. 備蓄・移動ルートの避難所(災害用伝呼ダイヤル、非常用伝呼機、非常用伝呼機)
4. 情報入手先 (Web:防災ポータル、防災ポータル、防災ポータル)

中央区災害対応マップ (白田・船場・土佐・本町・本町東) もご利用ください。



# まち歩きでつくる 減災カマップ

災害は常に想定以上のことが起こります。平時にまちを知っておけば、臨機応変な対応ができます。船場減災カマップ2015では、船場のまち歩き参加者の意見に基づき、まちの減災カマップを作成しました。皆さんもご自身を歩いて、オリジナルの減災カマップを作ってください。

- まち歩き範囲と実施日時**
- 本町 × 御堂筋エリア ▶ 御堂筋×中央大通 交差点 半程250m圏
  - 2015年 10月9日(金)午後
  - 淀屋橋 × 御堂筋エリア ▶ 御堂筋×今福通 交差点 半程250m圏
  - 2015年 10月10日(土)午後
- 【同日の参加者 約45名】

**参加者**

船場地区の住民、ワーカー、学生、御附子御孫会、主催者船場地区のメンバー、協力参加団体のメンバー

減災・サイバールまち歩きリーダー

片山 誠 一社・2時間サイバール減災カマップ制作員

森吉 裕志 船場地区減災カマップ制作員

主催者 船場減災委員会

(大阪中央区役所、本町東、船場地区、御堂筋ロ-ト-ワ-ク)

協力参加団体 大阪船場地区ロ-ト-ワ-ク、御堂筋まちづくりネットワーク、JOIN、未来を変える-共創プロジェクト、NPO船場支援ネットワーク

フォト: istockphoto.com

**72時間サイバール・自動に向けて**

一社・2時間サイバール減災カマップ

片山 誠

地震、津波発生した時場合のリスクを想像してみましょう?

- ① 建物崩壊 ... 落下物による危険 通行困難など
- ② 津波による水没 ... 電気がお断り 通行困難など
- ③ ライフラインストップ ... 携帯電話、トイレの故障など

その中でも命にかかわるリスクは何かあるでしょうか?

- ① 低体圧症 ② 脱水症状 ③ 倒壊建物の下敷きなど
- ④ 火災被害 ⑤ 火災発生 ⑥ 火災発生 ⑦ 火災発生

危険を回避するために必要なものは何でしょうか?

- ① 毛布や寝るの衣装 ② 水 ③ リスキューマンを呼ぶための笛など

それらはどこにあるか知っているますか?

- ① 避難所 ② 避難所 ③ 避難所 ④ 避難所

災害時の家族の安全確認ができるために

- ・家族との連絡方法を共有しておく(伝言ダイヤルやLINEなど)
- ・携帯電話の電源が切れれば、予備電源を用意しておく
- ・ライフラインがストップした場合は対策を講ずる必要がある
- ・災害を想定して、避難場所まで家族全員で行って置く

減災カマップを基盤とした活動により実現させたい、船場地区(淀屋橋-本町)の減災カマップの作成を促すこと、(地図)の方法はご一任頂いております。年、船場の住民・ワーカーご意見が、減災カマップの作成に役立ちます。

連絡先: 船場減災委員会事務局 mcryoshihiro03@gmail.com